

FUKUOKA ONE HEALTH ACTION!

そもそも ワンヘルスとは？

ワンヘルス（One Health）という考え

今、地球上では、人口の増加、森林開発や農地化などの土地利用の変化、これらに伴う自然環境の悪化や地球温暖化などの気候変動の影響が生じています。また、人がこれまで立ち入らなかった自然の奥地にまで侵入するなど、人と野生動物とが接触する機会が増加しました。こうしたことにより、新型コロナウイルス感染症をはじめとする、人と動物に感染する「人獣共通感染症」が増えています。それに備えるには「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一つの健康と捉え、一体的に守っていくというワンヘルスの考え方に基づく取り組みが必要です。私たちが健康に暮らしていくためには、地球に暮らす動物、そして地球自身も健康でなければなりません。この考え方は世界的に広がっており、『G7サミット』や『生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）』など国際間の枠組みでも合意されています。

ワンヘルス 推進の体制整備

宣言から条例、そして計画へ

2016年11月、北九州市にて開催された『第2回世界獣医師会－世界医師会“One Health”に関する国際会議』において、ワンヘルス実践の礎となる「福岡宣言」が採択されました。以降、福岡県は「福岡宣言」の地としてワンヘルス推進に取り組む中、2020年12月に議員提案により、全国初となる「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を制定しました。この条例はワンヘルスの実践にかかる基本理念、基本方針などを定めています。そして、2022年3月にワンヘルスに関する県の施策を体系的に整理した「ワンヘルス推進行動計画」を策定し、ワンヘルスの取り組みを本格的に進めています。



県民の皆さまへ

福岡県では、人獣共通感染症や生物多様性の損失、地球温暖化といった、人と動物、そして環境の各分野にまたがる課題に対応するため、さまざまな取り組みを進めています。ワンヘルスを実現していくためには、県民一人一人が人と動物の健康と環境の健全性を一つの健康と捉え、一体的に守るというワンヘルスの考え方を理解し、主体的に行動することが何よりも大事です。

例えば、毎日の手洗い・咳エチケットなどの基本的な感染防止対策を行うだけでも人獣共通感染症対策になります。抗生物質は用法用量を守り、最後まで飲むことで薬剤耐性菌の発生防止となります。また、自家用車の使用を控え、公共交通機関を利用することは二酸化炭素の排出を抑え、環境保護につながります。

このように、ワンヘルスは今すぐに取り組むことができます。本リーフレットをご覧いただき、他にもどういったことができるのか、皆さまも自分事として捉えワンヘルスについて考えるきっかけにいただければ幸いです。ぜひ一緒に「人と動物の健康と環境が調和した社会」を「次世代につなぐ」ことを目指していきましょう。



発行：福岡県（保健医療介護部保健医療介護総務課ワンヘルス総合推進室）
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7 TEL 092-643-3622
URL：https://onehealth.pref.fukuoka.lg.jp



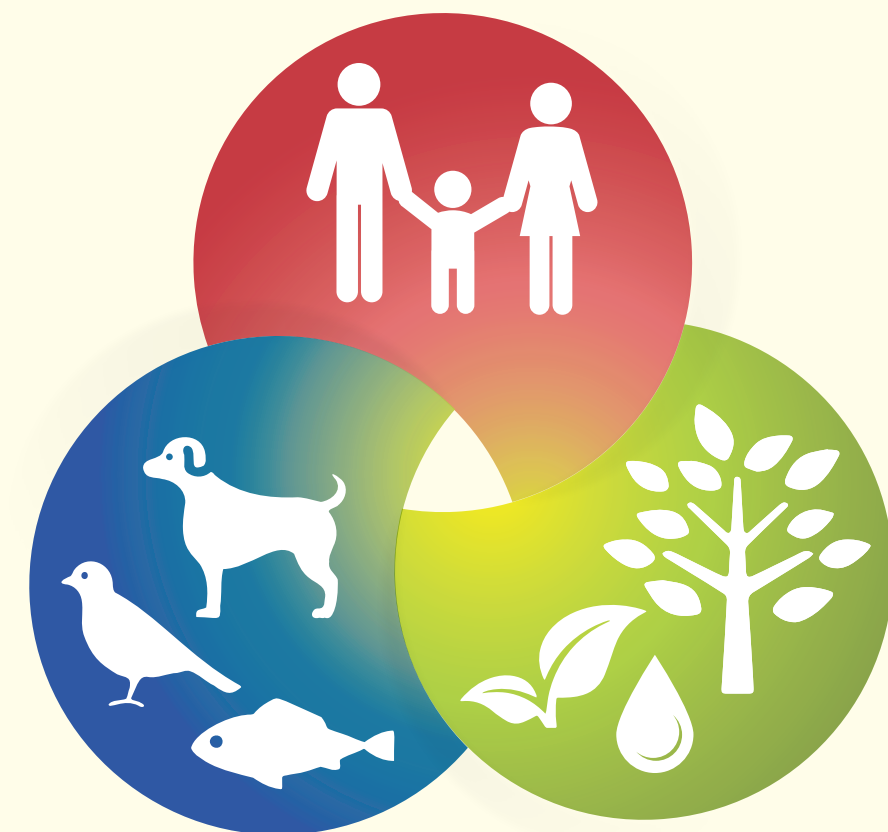
Instagram



Twitter



Portal site



FUKUOKA ONE HEALTH

ワンヘルス 6つの基本方針

下記の方針に基づいたさまざまな取り組みを行うことで、理念の推進・実現を目指しています。

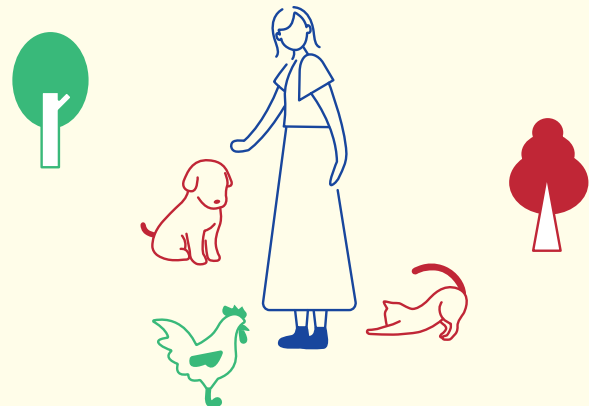
POINT 01

人獣共通 感染症対策

「人獣共通感染症」とは、人と動物双方に感染する病気のことです。新型コロナウイルスや牛海綿状脳症（BSE）、鳥インフルエンザなど、大きな社会問題となった病気も多く、人の感染症の約60%を占めると言われています。また近年新たに発見された「新興感染症」の約75%にも当たり、WHOで確認されているだけでも200種類以上あります。これらの感染を防ぐには「感染源（病原体を保有している動物や物）」「感染経路（飛沫感染や接触感染など病原体が体の中に侵入する経路）」「宿主（病原体に寄生される生き物）」の3つの要因への対策が必要です。

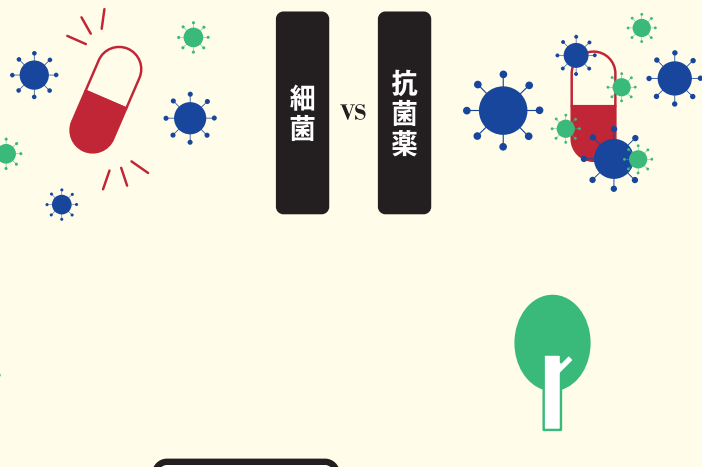


犬や猫、鳥などの愛玩動物（ペット）は、私たちの生活に潤いと安らぎを与え、今や家族の一員とも言える重要な存在です。また、災害救助やアニマルセラピーなど、社会活動のさまざまな場面で活躍する動物もいます。このように人と動物が共生している一方で、安易な飼養や遺棄や虐待、悪質な業者による販売などが問題となっています。また、過度な触れ合いや不適切な管理により、愛玩動物を介して人獣共通感染症に感染する事例も発生しています。人と動物との関係をより良く保つためには、動物の生態や本能、習性を理解し、動物を飼う場合には、衛生管理に気を配り、寿命を迎えるまで適切に飼養することが大切です。



POINT 04

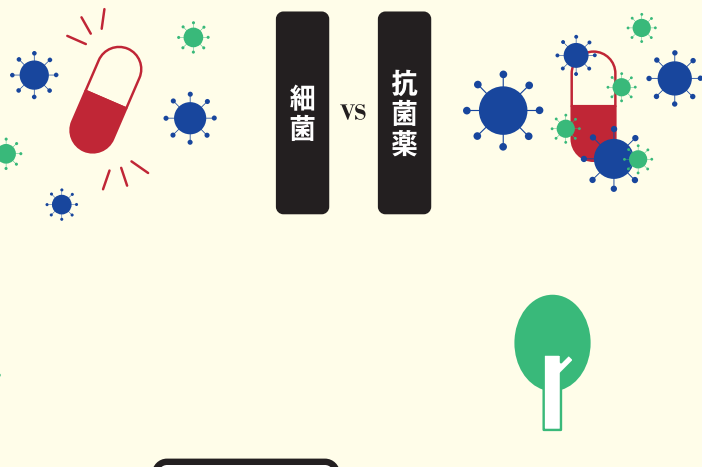
人と動物の 共生社会づくり



「薬剤耐性菌」とは、抗微生物剤に抵抗できる細菌のことです。薬剤耐性菌による感染症が発生すると、これまで使用していた抗微生物剤が効かなくなるなど、治療が難しくなります。薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗微生物剤の開発は減少傾向にあり、このまま何も対策をしなければ、2050年までに年間1000万人が死亡し、その数はがんによる死亡者数を超えると国連は警告しています。また経済的にもリーマンショック時の金融危機に匹敵するダメージを受ける恐れとも言われています。薬剤耐性菌を増やさないためには、一人一人の取り組みが重要です。

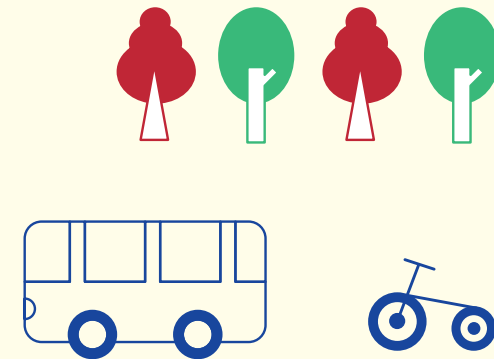
POINT 02

薬剤 耐性菌対策



POINT 03

環境 保護



近年のグローバル化や大量消費・大量生産は、森林や生態系を壊し、気候変動の一因になっています。地球温暖化は豪雨や台風などさまざまな災害の原因となり、大規模な森林伐採や急速な開発による都市化は、それまでジャングルの奥地に生息していたウイルスなどの病原体と人が遭遇する機会を生み、新たな感染症が発生する恐れもあります。人と動物の健康を維持するためには、多様な生態系を守り、人と動物とのすみ分けを保つことが大切です。そして、豊かな自然環境を次世代に引き継いでいかなければならないことも忘れてはなりません。

「食」は、私たちの健やかな毎日を支える源です。健全な環境で育った家畜や農作物・水産物を食べることが、人の健康にも直結しています。安全な米や野菜などを作るためには、健全な環境の農地や水が必要です。肉・卵・牛乳などの畜産物は、牛・豚・鶏などが健康に育つよう、飼育環境や餌の安全性に配慮しなければなりません。また、地産地消に取り組むことは、「食」の安全・安心や環境への負荷軽減につながります。そして、「食」に対する知識と、「何を食べるのか」「何を食べてはいけないのか」を学ぶ「食育」を通して、農作物や水産物が自然環境や動物の「いのち」に関係していることを意識することも大切です。



POINT 06

環境と人と動物の より良い関係づくり



ワンヘルス 宣言事業者 登録制度

ワンヘルスの考え方に基づいた活動を行うことを宣言した県内の事業者・団体を登録する制度です。具体的には、ポスターを掲出するなど、人獣共通感染症の普及啓発や、電気・ガソリン使用量の削減などに取り組みでいただき、さらにその取り組みを自社HPやSNSなどで発信していただきます。こうした活動を促すことによって、社員の家族、友人、さらには地域や取引先へとワンヘルスの取り組みの輪を広げていきます。

ワンヘルスの森

大野城市、太宰府市、宇美町にまたがる約340ヘクタールの森林公園「四王寺県民の森」を「ワンヘルスの森」として整備しています。多様な生き物が生息する豊かな森林で、ワンヘルスを自然の中で実感することができます。新たに森林浴などの体験プログラムを開催するほか、公園内にある学習展示館で、人と動物と森林の関わりについて分かりやすく紹介しています。



福岡県“One Health” 国際フォーラム

新型コロナウイルス感染症をはじめとする人獣共通感染症などに対して、医療・獣医療・環境などの各分野の世界のトップクラスの研究者がワンヘルスアプローチにより解決していくことを目指し、研究成果を世界に向けて発信します。2020年度から毎年開催しており、国内外の著名な専門家による基調講演や分科会のほか、県民講座も実施しています。

福岡県の 取り組み

新しい保健環境研究所のイメージ ※動物保健衛生所（仮称）はこの図中ではありません。



ワンヘルスセンター

新興感染症や地球温暖化などのワンヘルスの課題に対応する実践拠点として、全国初の「ワンヘルスセンター」を整備します。その中核施設として、人の健康や環境保全に関する調査・研究を行う「保健環境研究所」を移転・建設するとともに、家畜・愛玩動物、野生動物、動物園にいる展示動物の保健衛生を一元的に担う「動物保健衛生所（仮称）」を新設します。他に類を見ない、人、動物、環境の各分野に関する一体的な試験・検査、調査・研究ができる特徴を生かして、ワンヘルスに関する先進的な調査・研究や専門人材の育成などを進めていきます。